関金さいとりさし

出かけた　出かけた　出かけた

さいとりさしが出かけた

今日も天気　あしたも天気

天気続いて　さいとりさしが出かけた

私しゃ伯耆の　御殿様の

たかのえをさす　えさしでござる

谷より峯の　峯より谷の

小池　ことんぎょの夜ざさの中を

押しわけて見たら

四十がらめの　さえずるこえが

ちゅうちく　ちゅうちく

ちくちくりんちく

さえずるこえが

なんとも　かんとも　たとえがない

鳥の中でも種類が　段々ござる

一つひよどり　二つがひばる

三つみみづく　四つがよたか

五ついつさぎ　六つにもんず

七つなぎさぎ　八つ山鳥　九つことり

十でとんだら　ひわめが一羽

あいつにくいやつ　ささねばならぬ

さすこた　さすが

天気続いて　もちいがやけて

やけたもちいは　すごいてすてて

あたらしいもちを　こしから出して

かんでのべて　くるくるともくって

つばてで　なでて

さすこたさすが　だいじにかかれ

そこらあたりの　子供衆はだまれ

おせんもだまれ　おまんもだまれ

だまる子供にゃ　すげばねやるぞ

かかよ　裏の小畑で

ごんぼう三本ぬいて来い

ついでに　ねぶかも　あらっとけ

一升半じゃ　こまいぞ

三升なべを　あらっとけ

さすこたさすが　だいじにかかれ

ちょいとさいたら　五間程はずれた

はずれたも　道理

せいは　ちんちくりん

とまり木は高し

さいとり棒は　これだき

はずれたも　道理

にげたも　にげた

見つけたも　見つけた

伯州伯耆の　大山寺の

門のわきの　檜の枝に

あちらむいた枝に

こっちむいてとまった

あいつにくいやつ　追わえにゃならぬ

急がにゃならぬ

急ぎゃ間もなし　大山寺に

つくこた　ついた

寺の和尚さん　ごめんなりませ

ごしょめん　なりませ

私しゃ伯耆の　御殿様の

たかのえをさす　えさしでござる

寺の寺中でせっしょをたのむ

そこで和尚さんが　申するようは

なんぼ　お前が　御殿様の

たかのえをさす　えさしだとても

寺の寺中じゃ　せっしょはならぬ

せっしょしたなら　ばちがあたる

そこで　さいとりさしが

もつくろ腹立てて

寺の和尚さん　ようききなされ

ばちも段々　種類がござる

山の八きじばち　子供の八

ごつけん八　十七、八　穴八

寺の八　みょう八

ばちが　あたれば　あたれ

そこで和尚さんが　利につめられて

奥の一間に　ごそごそとはいこんだ

ぼうず出ぬ間に　さいてはやるが

なんと言うても　とまりは高し

さいとり棒は　これだき

いっそ笠でまねき　おろして

地鳥となった

はむが　はむが　はむがの

かぶせにゃ　ならぬ

だいじに　かかれ

かぶせたも　かぶせた

もっくり　もっくりするわいの

てんか　いたちか

もっくり八か　ひょうたんか

手出しゃ　くいつくし

足出しゃ　かなぐるし

もっくり　もっくりするわいの

かかえにゃならぬ　大事にかかえ

かかえたも　かかえた

へその下へんが

もっくりもっくり　するわいの

あけて見たれば　福の神